

(4) 類似事業の有無

無し

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	3,600	少年補導員の活動に対する謝金
需用費	487	少年補導員・居場所づくり活動用消耗品等
役務費	344	少年メール相談窓口用携帯電話使用料、少年補導員用ボランティア保険料、居場所づくり活動用保険料
使用料及び 賃借料	21	居場所づくり活動用会場使用料
合計	4,452	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略

Ⅱ-2-(2)-③ 犯罪・交通事故防止の推進

(2) 国、他県の状況

少年の立ち直り支援事業は、全国的に展開している事業である。

(3) 後年度の財政負担

少年補導員活動について継続的に支援を実施していく必要がある。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/>	新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/>	継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 少年非行の抑制を図り、総合的な少年非行防止対策を実施することで、少年の健全育成を推進する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (H)	R2年度	R3年度	R4年度	終期目標 (R)	達成率
		実績	目標	目標		
① 少年補導員街頭補導出動延べ回数		158回				%
②						%

○指標を設定することができない場合の理由

少年非行防止に関する事務的経費であり、目標を設定することは困難である。

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> ・少年補導員と連携した街頭補導活動 ・少年の規範意識向上対策 中学生を中心とした少年非行防止タウンミーティング 6回428人 ・参加体験型の少年の居場所づくり活動 ・少年相談窓口の開設 相談受理件数 581件
令和3年度	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%
令和4年度	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） <small>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</small></p>	
(評価) 2	少年非行防止活動は、警察の力だけでなく、民間活力である少年警察ボランティアや地域社会、関係機関との連携が不可欠であり、必要性は高い。
<p>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） <small>3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価) 3	県下で 800 人の少年補導員が街頭補導活動等に従事しており、県民から高い評価を得ている。立ち直り支援事業などは、非行少年の再非行防止につながる。
<p>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） <small>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</small></p>	
(評価) 2	街頭補導や有害環境の浄化、風俗営業者への働きかけ等非行防止啓発活動を効果的に推進するとともに、経費の節減にも努めている。

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項</p> <p>いじめ、児童虐待、有害情報の氾濫のほか、インターネットの普及による新たな非行被害に順応する必要がある、子供を取り巻く環境は依然として厳しく、継続した取組が必要である。</p>

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</p> <p>総合的な少年非行防止対策を継続して推進することで、少年非行の総量抑制を図り、少年の健全育成を図る。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	
<p>組み合わせて実施する理由や期待する効果 など</p>	